

## 〈平成28年度 総会〉

### 開催挨拶

環境システム計測制御学会 会長  
京都大学大学院工学研究科 教授 清水 芳久



本日は平成28年度環境システム計測制御学会総会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

私自身は会長をこれまで2期4年の間、務めさせていただいております。一時は学会の運営が厳しい時期もありましたが、本日の総会資料である平成27年度の決算、今年度（平成28年度）予算をご覧いただいております。お分りいただけるように、お蔭様で現在は安定した運営がされております。

振り返って学会運営が厳しい時も、研究発表会の実施、年4回の学会誌の発行、いずれも1回の中止もなく継続して実行いただいたことを、大変嬉しく思います。

EICAでは、平成17年度から若手育成プロジェクト「未来プロジェクト」を5年間、そしてその後継プロジェクトとして「新・未来プロジェクト」を5年間実施してきました。計10年間、これらの活動を継続できたこともEICAの一つの大きな成果であると嬉しく思います。昨年度はこの「未来プロジェクト」と「新・未来プロジェクト」の活動10周年を記念して、記念セミナーを東京と京都でそれぞれ開催し、プロジェクト卒業生が一堂に会しました。そこから「この取り組み、ネットワークを継続して活かしたい」との卒業生からの声で、卒業生の何名かが幹事となり、平成28年度夏からは「未来企画会議」がスタートします。EICAの若手が自主的に立ち上げたプロジェクトです。皆様のご支援をよろしくお願いします。

本年4月に熊本で大きな地震が発生しました。EICAでは平成23年に発生した東日本大震災による太平洋沿岸の下水処理施設の津波被害、平成24年に発生した米国ハリケーン・サンディによるニューヨーク市とニュージャージー州の下水処理施設の高潮被害についての、研究調査団を結成し、現地調査を計画し、それらの報告書を取りまとめました。

これらの実績から、日本学術会議が組織した「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」に参加し、その後継として組織された「防災学術連携体」でも、大きな学協会の加盟が多い中、EICAとしてどれくらい貢献できるか分かりませんが、今後もお役に立てればと思っています。

また昨年度は、会員の年齢層が年々上がってきていること、若手の加入が多くないことを危惧して、「EICA活性化ワーキンググループ」を立ち上げました。

このワーキンググループを中心に、EICAのパンフレットを新しく作っていただいたり、また業界への働きかけを行ってもらおうなど、個人会員、賛助会員の増

加を図ってきました。本日お見えになっていると思いますが、賛助会員に新しく、荏原環境プラント株式会社様、日之出水道機器株式会社様に加入していただきました。

個人会員につきましては、本日の総会議案にもありますが、個人会員の年齢層の上昇に伴い、新しく「シニア会員」という会員区分を創設しようと考えております。「シニア会員」は、継続して個人会員としてご支援いただいている満65歳以上の方で事務局に申請をいただければ、一定金額をお支払い頂くことにより、永久に個人会員のサービスが受けられるものです。

この「シニア会員」設立の議論の際に話題になったのが、会員サービスのご継続の意思を毎年どのように確認するかということでした。日本学術会議のシンポジウムに参加していますと、「私どもの学会は規模が小さく、会員数も3,000名くらいで〜」とおっしゃられる学会代表の方がいらっしゃって、「ではEICAは……」と思ってしまうこともあります。EICAは会員数が250名程度です。これはEICAの強みであり、EICAは会員の皆様のおひとりおひとりのお顔が見える学会だということです。

先ほどお話しした「シニア会員」の会員サービスの継続の意思というのは、EICAが「お互いの顔と温度が感じられる」学会である限り、「黙っていたら分からなくなる」ということは決してありません。どうぞこれからも愛情をもってEICAとお付き合いいただきたいと思っております。

またEICAではシニアの方にも若手の方にも出来るだけ良いサービスを平等に提供していきたいと思っております。私のような世代は、若手とシニアのそれぞれの世代を結ぶような、両方の世代が、いい会話、いいコミュニケーションがとれるように連結部分の役割を担っていきたくとも思います。

ぜひとも皆さま、ご自身の世代を振り返っていただき、これからも益々のご支援、ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

（清水会長はその後の評議員会にて、会長再任が決定されました）